

平成22年(2010年)10月8日

銭函風力開発株式会社
代表取締役 松島 聡 様

札幌市「銭函風力発電所環境影響評価書案」
検証専門家会議 座長 長谷部 正基

「銭函風力開発建設事業に係わる環境影響評価書案」について

本専門家会議は、御社が公告・縦覧した標記評価書案について、札幌市長が札幌市域に係る事項の検証を目的に設置したものであり、平成22年10月6日開催の第2回専門家会議では、御社関係職員のご出席を賜り、追加資料の提出や質疑応答等にご協力をいただいたところであります。

同日の会議では、この追加資料も加え評価書案の検証を行ったところですが、次回会議での検証結果取りまとめにあたっては、下記のとおり評価の追加が必要であると考えことから、評価の追加を行い、その結果について御社のご見解をお示しいただきますよう依頼申し上げます。

また、見解書は、平成22年10月15日(金)までに、下記事務局あてご提出いただきますよう重ねてお願い申し上げます。

記

1 低周波音の評価について

評価書案では、低周波音圧レベルについて現況値と予測値の比較による評価が行われているが、現況低周波音圧レベルの測定方法について、全天候型防風スクリーンの使用のみでは、測定機器(マイクロホン)の特性上、風雑音の影響により、得られた現況調査結果が、実際の低周波音圧レベルを上回る数値となっている可能性を否定できないと考える。

したがって、評価の信頼性を高めるため、現況低周波音圧レベルは、「平均値」ではなく、風の影響をできるだけ排除するため、瞬間最大風速が最も小さい時のデータである「最小値」を現況値として用いた評価の追加が必要であると考え。

また、低周波音については環境基準等がないことから、現在の知見に基づく指標を複数用い、多角的に評価することが重要であることから、評価書案に記載する参考指標値(94ページ)との比較に加え、

①低周波音問題対応のための「評価指針」(平成16年環境省)に定める評価方法

②1/3オクターブバンド音圧レベル毎の予測値と感覚閾値との比較

を追加し、環境への影響が回避・低減されているかの評価を行うことが必要と考える。

2 景観の評価について

当該事業予定地は、石狩浜の原風景に近い景観を有しており、小樽市のみならず広域的に貴重な観光資源、景観資源として活用されていることから、これらの特性を十分勘案した環境保全目標を示し、予測結果と当該目標との整合を検討し、環境への影響が回避・低減されているかの評価を行うことが必要と考える。

事務局

札幌市環境局環境都市推進部
環境管理担当課 伊東、葉原
札幌市中央区北1条西2丁目

TEL 011-211-2879 FAX 011-218-5108

e-mail assess@city.sapporo.jp